



新田サドベリースクール

SHINDEN SUDBURY SCHOOL

新田サドベリースクールニュースレター

みなさま、こんにちは。新田サドベリースクールのある鳥取県智頭町では12月から雪が積もり、生徒たちはそり遊びや雪遊びを楽しんでいます。去る9月、デモクラティックスクールで何年間か過ごしたのちに社会人となった20代の方々をお招きして、お話を伺う機会を作りました。「学校に行かないって、どういうことなんだろう?」「このまま学校に行かなかったら、どのような形で社会に出ていくんだろう?」そんな生徒・保護者からの質問に、体験談をたくさん交えて答えていただきました。

こんなデモクラティック・スクールOBが、遊びに来てくれました

児島ころろさん

小学校2年生まで公立の小学校に通い、その後兵庫県のデモクラティックスクール「まっくろくろすけ」に入学。17歳で「まっくろくろすけ」を卒業した後は、様々なアルバイトを経験。2011年の東日本大震災をきっかけにライフスタイルを見直し、現在は兵庫県淡路島在住。薪を使って料理をしたり、狩猟免許を取得して鹿を自分たちでさばいたり、自然に寄り添った暮らしを楽しんでいる。



児島いのりさん

小学校入学後1か月で不登校状態となり、「まっくろくろすけ」に通いはじめる。15歳で「まっくろくろすけ」を卒業した後は様々なアルバイトを経験したほか、洋裁学校に合計2年半通って技術を身につけた。東日本大震災を機に原発に頼らない暮らしを目指して兄弟とともに脱原発運動を行うも、少しずつ価値観が変化し、まずは自分たちが豊かな暮らしをすることが大切なのではないかと考えるようになった。現在は姉と一緒に淡路島で自分たちの力を頼りにする暮らしをしている。

鈴木一真さん

12歳から18歳まで西宮サドベリースクールに通い、サドベリー・デモクラティックスクールとは何かを学ぶ。18歳から昆虫の調査と研究を行う会社勤務を経て、昆虫よりも子どもと関わる仕事がしたいとの思いから、西宮サドベリースタッフを3年間務める。その後は民間の保育園に勤務し、2016年1月より、八ヶ岳サドベリースクール・スタッフを務める。「自分を生きる」をモットーに、自身がサドベリーに通って学んだことや、子どもを尊重する関わり方、これからの時代に向けて必要になるサドベリーの価値観を世の中に広め伝えている。

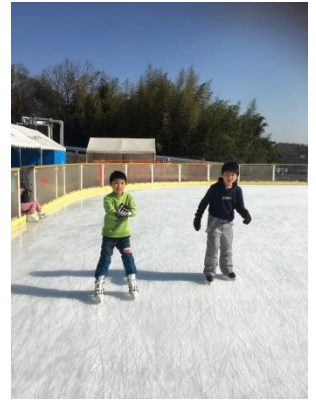


やり取りの内容はスペースの都合上ここではご紹介できませんが、新田サドベリースクールブログに12月1日「サドベリーを卒業すると、どんな大人に?」のタイトルで投稿しています。どうぞご覧下さい。

3名のゲストには印象的な共通点がありました。それは、「自分は100%、親から信頼されている。」という安心感を、子どもの頃から持ち続けているということです。3人とも、「自分がやりたいと思ったことに、親が理不尽に、一方的に反対したりすることはなかった。」「自分を子ども扱いすることなく、対等な存在としてどんな意見にも耳を傾けてくれ、尊重してくれた。そのおかげで、今の自分がある」と話していらっしやいました。お話を聞いて、どの子どもも周囲の声掛けや心がけ次第でのびのびと自分に対する肯定感を育てていくことができるのではないかと感じました。大人・子どもに関わらず、相手の存在をありのままに受け入れ、行動を批判することなく「あなたの意志を尊重するよ。」という態度から関係をスタートさせることの大切さを、あらためて感じる機会になりました。

スケート遠足に行きました。

この冬はすでに2回、アイスランド津山へ遠足に行きました。快晴の一日、初めての子も経験者も、助け合いながら何時間もスケートを楽しみました。



兵庫県のデモクラティックスクールと交流しました。



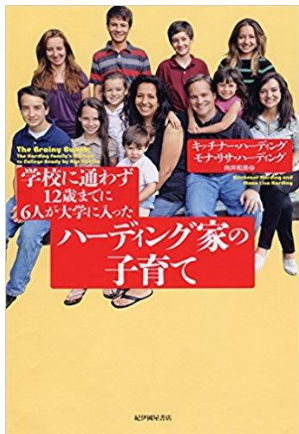
デモクラティックスクールとして20年以上の歴史を持つ「まっくろくろすけ」にて、一日交流を楽しみました。トランポリンをしたり、鬼ごっこをしたり、一緒に焼き芋をしたり…。10代半ばの生徒も多数在籍するまっくろくろすけの様子に、いろいろと刺激を受けてきました。



これからの「学び」を考えるための一冊。

『学校に通わず12歳までに6人が大学に入ったハーディング家の子育て』

/キッチンナー・ハーディング、モナ・リサ・ハーディング著』



アメリカ在住のキッチンナーとモナ・リサ夫婦は、いくつかの理由から12人の子どもたちの学習を自宅で見守ることにした。彼らが自宅での学びを選んだその理由とは…

●学校では、自分のペースで学ぶことは許されない。先に進みたい生徒がいても、(教師は)その子に合わせて進度を速めることはできないし、遅れている生徒がいても、わかるまでいねいに教えている時間はない。 ●同じ年齢の子だけを集めて教育をすると、実社会に適応するための社会性はうまく身につかないし、周囲と同じ行動を取らなければ、というプレッシャーも感じやすくなる。この世界は、同年齢の仲間だけで動いているわけではない。 ●学校での銃乱射事件に巻き込まれたり、いじめや暴力を受けたりする心配がない。 ●子ども達ひとりひとりの興味に合わせて、カリキュラムを自由に作ることができる。たとえば、ひとつの教科を徹底的にしかも大きなつながりの中で学んでいくと、それがほかの教科にも関係しているのがわかってくる。ひとつの教科がほかの教科につながるその全体像がつかめれば、子どもは目に見えてよく理解できるようになる。(「ホームスクーリングを選んだ11の理由」の項より抜粋)

結果として、12歳までに中学・高校レベルの学力を身につけた子どもたち6人は、大学への入学を許可され実際にキャンパスに通い始めた。まだ年齢の低い他の兄弟たちも、同様に「学び」に対して高いモチベーションを持っている。夫婦がどんな価値観を大切に、子どもたちの意欲を引き出すことに成功したのか？子どもたち自身は、学校に行かないことに不安を感じなかったのか？周囲から批判を浴びることはなかったのか？「わたしの学歴は高卒ですし、私たちはごく普通の夫婦です。」と称する母親のモナ・リサと父親のキッチンナー夫婦みずからの言葉で、彼らの学びの様子が丁寧に記されている。高度に情報化し、多様化した現代社会におけるこれからの「学び方」について、新しい視点を与えてくれる一冊です。



新田サドベリースクール

新田サドベリースクール
SHINDEN SUDBURY SCHOOL

鳥取県八頭郡智頭町西谷 TEL 0858-71-0831

E mail : info@shindensudbury.org